

青少年ふくしま

福島県青少年育成県民会議
第58号
平成30年3月13日(火)

平成29年度を振り返って

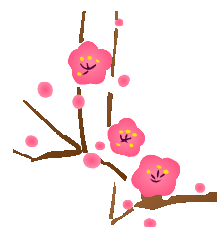
冬季オリンピック「ピョンチャン大会」では、選手の皆さんの熱のこもった競技に多くの感動をもらいました。その中で、競技を終えた選手が必ず述べている言葉がありました。「感謝しかありません。皆さんに支えていただいたからこそここまでこれました。」です。感謝の気持ちというのは、目的に向かって行動していくための強力なパワーになります。感謝の気持ちがあれば、結果はどうあれ、現在の自分や周囲の方々の応援や支援を感じ、心が穏やかにもなります。

このことから、次代を担う青少年に「感謝」の気持ちを育んでいくことが我々大人の重要な役割であると感じました。

大人の役割の一つとして「感謝」について述べさせていただきましたが、「大人が変われば、子どもも変わる」県民運動を推進してきまして、健全な青少年の育成に大人が重要な役割りを担っていることをあらためて認識いたしました。

さて、今年度も当県民会議の各事業に際し、各青少年育成市町村民会議の皆様をはじめ、会議員、関係者の皆様の温かいご支援やご協力をいただきまして誠にありがとうございました。

平成29年度を振り返って、当県民会議の各事業について以下のようにまとめました。来年度に活かし、更に充実した事業を展開してまいります。



◇ 大人が変われば、子どもも変わる県民運動

- 大人への応援講座 … 県内23市町村の35講座に要請された講師を派遣しました。
- 大人が変わるためのセミナー … 青少年会館を会場に6, 7, 10, 2月の4回実施し、講演会を中心に大人としての役割や青少年への支援等について学ぶ場を設定しました。

◇ 「少年の主張大会」活動

- 少年の主張 福島県大会 … 9月20日、第39回大会を須賀川市文化センターで開催。県内各地の中学校から合計14,409点の応募がありました。

◇ 健全で明るい家庭づくり推進運動

- 「家庭の日」作品コンクール… 作文1,426点、絵画560点、ポスター47点の多数の(作文、絵画、ポスター) 応募がありました。

◇ 青少年を取り巻く有害環境対策の推進

- 有害環境対策各種事業(いわき市での街頭啓発等)への参加・支援

◇ 県民運動推進活性化活動

- 理事会・総会 … 5月22日、福島県青少年会館で実施しました。
- 市町村民会議との連携強化と広報活動の推進
- 広報誌「青少年ふくしま」の発行 … 第55号～58号を発行。
(バックナンバーは、ホームページに掲載中です)
- 福島県青少年育成県民会議会長表彰 … 推進大会(11月20日)の席上個人30人と17団体、1市町村民会議を表彰いたしました。
- 青少年育成関係者各種研修会の開催 … 青少年育成リーダー養成研修会
- 県民会議活動の運営推進 … 内閣府事業等への参加

◇ 福島県青少年総合相談センターの運営

県の委託により、専任の相談員を配置して無料相談窓口を開設しています。子ども・若者が抱える様々な困難について、ご本人やご家族から幅広い相談を受け付けました。

- 相談内容は ・ 自分または家族が不登校・ひきこもり・ニート・進路発達などで悩んでいる。
・ 仕事をしたいが人と話をするのが苦手 など
 - 相談場所は … 福島県青少年会館 1階（無料駐車場完備）
 - 相談時間は … 火～土曜日 9時30分から17時30分まで（祝日、年末年始を除く。）
 - 相談方法 … 面接（要予約）、電話、メール、FAX
 - 電話・FAX：024-546-0006
 - Eメール：soudan-fukushima@gaea.ocn.ne.jp
- ※ 同センターには、『福島県ひきこもり支援センター』が併設されています。



◇ 福島県ひきこもり支援センターの運営

- 利用できる方 … 福島県民で、ひきこもりに悩んでいるご本人やそのご家族など。
福島県の委託事業ですから、相談者やご家族の費用負担はありません。
- 「福島県ひきこもり支援センター」では、ひきこもりご本人やご家族の状況に合わせて、地域の保健・医療・教育・労働・福祉機関などと協力し合いながらサポートしています。
- 相談時間は … 火～土曜日 9時30分から17時30分まで（祝日、年末年始を除く。）
- 相談方法 … 電話やメールによる相談、直接相談など。まずは、電話でご予約ください。
 - 電話・FAX：024-546-0006
 - Eメール：soudan-fukushima@gaea.ocn.ne.jp

プロから学んだ！！子どもを指導するためのコツ

去る2月17日（土）青少年会館において「第4回 ふくしま青少年育成セミナー」を開催いたしました。福島ユナイテッドFC アカデミーダイレクター 原 隆弘様、同じくアカデミーコーチ 柳原 圭様をお迎えし「プロに聞く指導のコツ」と題して御講演をいただきました。以下、その概要を御紹介いたします。

《柳原 圭 様》 クラブの概要説明

- 2002年にクラブを結成（前身は福島ベラーダ）
- 会津若松市を中心に活動し、「とうほう・みんなのスタジアム」をホームグラウンドとしている。
- ユナイテッドは、「結ばれた・団結した・統一した」の意味で、チーム、選手、スタッフ、サポーターが一つになって、福島の発展、活性化のために活動していくことを目指している。
- サッカーを通して地域に貢献し、地域から愛されるクラブ（より多くの人々に「あって良かった」と思ってもらえるクラブ）を目指している。このことが、クラブの更なる成長へとつながる。
- クラブの地域貢献活動
 - ・ 風評被害の払拭
アウェイの試合会場や県外のイベントで福島県産品の販売
アウェイでのパンフレット配布やアウェイサポーターの来福



このような活動が評価され、日本財団「HERO'S AWARD 2017」を受賞する。

- ・ 地域活性化のために、街のイベントの積極的参加（小学校での田植え、学校訪問、わらじ祭りへの参加等）
- ・ サッカー教室の実施、日本サッカー協会「巡回指導」

《原 隆弘 様》

- 長期的な目を持ち子どもたちを育成していく。
プレ・ゴールデンエイジ（8、9歳ごろ）
ゴールデンエイジ（9歳～12歳ごろ）
小学3年から小学6年までの間に即座の練習により、技術の習得を目指す。
ポスト・ゴールデンエイジ（13歳ごろ以降）
- ゴールデンエイジについて
子どもは小さな大人ではない。
成長期の子どもたちは個人差が大きい。



この子どもは簡単に技術を習得できるのか、時間をかけて習得するのを見極めて指導することが必要である。

- スキャモンの発育曲線（誕生から成熟期までの発育量を100%）
 - ・ 生殖系（ひげ、筋肉等）は、13歳ごろから発達する。
 - ・ 神経系（技術系）は、9～13歳ごろほぼ100%発達する。
 - ・ リンパ系（免疫系）は、12歳で100%発達する。
※ 筋力トレーニングは高校生から行っても間に合う。
- 成長スピードは1人ひとり異なる。
- 精神面のサポート
 - ・ 子ども（選手）によって、成長する時期、タイミングは異なる。（伸び悩みの時期）
 - ・ 競技になかなか出られない時期もある。（試合に出られない）
 - ・ 身体的な成長の影響からプレーがうまくいかなくなる。（身体のぎこちなさ）
 - ※ クラムジー（成長期のスポーツ選手に起こる極度のスランプ）があるということを知っておくことで、的確なアドバイスができる。
 - ※ 声かけ等のケアをし徐々に次のステージへ進めさせる。
- 指導者とは
Teaching「知識や基本技術を獲得させる（教育）」
Coaching「子ども（選手）たちの未知の能力を最大限に引き出す」
- 指導者像
「子ども（選手）のお手本となる人間であること」
 - ・ 選手からみれば指導者は1人であり、1人1人に合ったアプローチが必要である。
 - ・ 子どもの成長には、保護者のサポートが不可欠である。
例えば、バランスのよい食事を摂ってもらう。ご飯を食べるのも練習である。
※ 韓国選手は、日本選手の1、5倍の食事を摂る。
 - ・ 保護者は我が子がかわいい。コーチ、選手、保護者の3者が連携を取り合って指導できるようにすることも指導者として大切なことである。
- 指導者にとって大切なこと

情熱をもって指導する

- ・ 常に勉強したり学んだりしていく。
- ・ ノウハウを知っていても情熱がないと選手に伝わらない。
- ・ 情熱とともに、人間性がないと選手がついてこない。

やってみせ、言って聞かせて、させてみて、ほめてやらねば、人は動かじ。
(山本五十六の言葉)

やってみせ デモンストレーション

- ・ きちんとデモンストレーションをやらなければならない。
- ・ コーチは準備をしている。
- ・ 指導者が練習してからみせる。

言って聞かせ 説明

素早く、要点を絞って簡潔に行う。

ほめてやらねば ほめる

口だけでなく、心からほめる。



○ コミュニケーション

※ 海外に移籍した日本人のサッカー選手で、チームメイトとコミュニケーションがとれなくて帰国する選手がいる。

- ・ あいさつは、コミュニケーションの第一歩である。
- ・ 一方的な話でなく、「今、何したかったの」と双方向での会話をする。
- ・ 「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「どうした」「どのように」と順序立てて話す。
- ・ 「みんな」って誰？ 「あれ」って何？ きちんと最後まで話す。

○ 個々の子どもを活かすために

- ・ 1人ひとり、個々の特徴を理解し認める。
- ・ 1人ひとりの子ども(選手)たちと信頼関係を築く。



個々にあったアプローチをし、能力を引き出す。

- ◎ 良かった所は、たくさんほめる。
- ◎ 改善する所は、トライしたことをほめ、アドバイスをする。

良い部分だけが特性ではない。
チャレンジする気持ちを失わない。

○ スポーツの楽しさ

する、観る、支える 多くの感動が生まれる。



※ 最後に以下の言葉で講演を終えられました。

大事なのは、今日の結果ではなく、子どもが明日どういうプレーをするかを楽しみにする気持ちを持つこと。 (サッカー元日本代表監督 イビチャ・オシム)

学ぶことをやめたら、教えることをやめなければならない。
(サッカー元フランス代表監督 ロジェ・ルメール)

(以上)

～福島県青少年育成県民会議～

〒960-8153 福島市黒岩字田部屋53-5 (青少年会館内)

電話 (024) 546-0002 FAX (024) 546-8311

e-mail f-youth@io.ocn.ne.jp